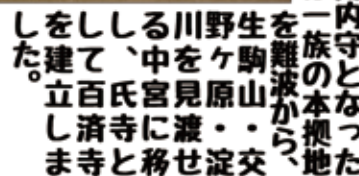


8世紀前半、時の三カド、聖武天皇は頭を抱えていました。大和の国で猛威を振るう流行病を鎮め、民の不安を除き、国家を安定させるために、大仏建立の詔を発しました。

しかし、民の心を纏める象徴として描いた、黄金の大仏を造るためには、黄金が必要でした。その時、陸奥から「百済王敬福が陸奥の涌谷で金を見つけた」という知らせが。これぞまさに天啓。敬福が一族にはそれ相應の褒美を与えねばなるまい。そして、百済寺が建立されます。

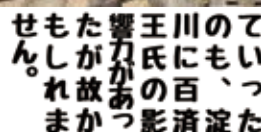
陸奥の涌谷（現在の宮城県涌谷町）にて、大仏建立に必要な金を初めて日本国内で見つけた百済王敬福。聖武天皇はこれを大いに喜び、敬福の7階級の昇進を認めました。

その後、河内守となった百済王敬福は一族の本拠地

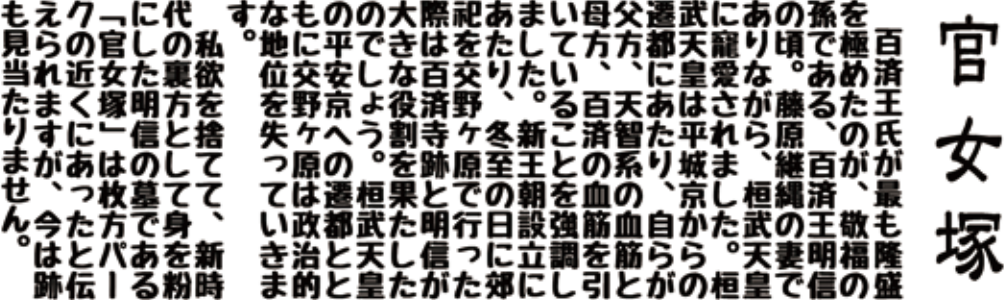


地名や店名など、口から口へ伝わり、紙から紙へと書き写されていくと音や表記が変わっていくものも多々あったでしょう。

枚方の向い、大塚も元々は「王塚」が由来だそうです。意味は「王様の墓」から来ています。その王が、河内守を務めた百済王敏福と伝えられています。場所としては、今の犬塚神社の



交野市倉治には、「大仏坂」という坂があります。2014年3月号の「広報かたの」の記事には、「奈良の東大寺の大仏を造る工人がこの地を通ったため」という説が掲載されています。近くには大仏町という地名も。交野ヶ原から大仏造営の技術者を送り出していたのかと口マンを感じさせてくれます。



官女塚に眠る明信の
 姪にあたる、百済王貴
 命の墓と伝えられてい
 ます。明信と同じく、
 天皇に仕え、百済王氏
 の繁栄期を彩りました。
 彼女の墓は官女塚と京
 阪電車の線路を挟んだ
 反対外、京阪園芸敷地
 内の最も奥に位置して
 います。発掘調査では、
 埴輪や須恵器が出土。
 この塚の部分だけが
 国有地であり、京阪園
 芸では、社員の方が月
 初めにお供えをし、お
 祀りをされています。

